苦境の中小 どう支える？

栃木県知事 福田富一氏に聞く

栃木県は自動車や航空宇宙といった産業集積を誇る、国内有数のモノづくり県だ。しかし、相次ぐ自動車産業などの減産や雇用調整の影響により、中小企業の多くが苦境に立たされている。今後、どのように県産業の活力を取り戻すのか。福田富一知事に聞いた。

―09年は企業規模にかかわらず厳しい年になりそうです。

「大津波と暴風雨が世界規模で同時に起きている。本県も緊急経済対策で、中小企業の資金繰り対策や雇用対策を講じているが、確実に効果があるとは言い切れない状況だ。だが、これからも県域間競争が激しくなっているし、県内に生産拠点にもなっている」

―この推進事業には新たに医療機器、環境、光産業を追加しますね。

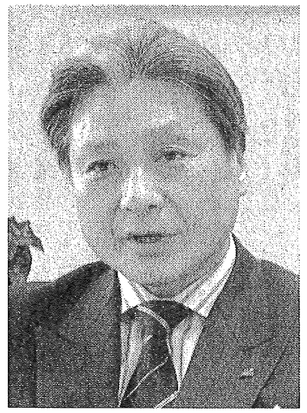
「対象となる中小企業のすそ野を広げ、さらに県産業の底上げを図るのが狙いだ。医療機器、光の両分野とも製造品出荷額が全国上位を占めており、潜在力が大きい。検討委員会では『県が応援する姿勢を鮮明にすることで希望を与えられる』といった声もあった」

―ただ環境分野はテーマが多く、総花的になる懸念があります。

「確かに環境は全産業にまたがり、関連技術も多い。だがこれからの時代を考えると外せない分野だ。横ぐしを刺せば、複数の技術を重ね合わせて新技術を生み出すといった発展も期待できる。県の底力を対外的に示すことにもつながる。09年度中には『とちぎ環境立県戦略』も策定する」

―最近は農商工連携が大きなテーマとなっています。

「従来は捨てていた農産物を使って高付加価値の商品にするといった新しい芽が出てきた。クラスター事業などを通じ、点と点を線で結んで面にしたい。関係者がお互いの知恵を持ち寄って新しい何かに取り組むきっかけをつくりたい。地域ブランドにもつながるので力を入れる」



医療・環境・光で産業底上げ

農商工連携でブランド化

記者の目

中長期的視野で県内の活性化を

「仕事がなくなり、いつ再開できるかもわからない」。県内の中小企業からはこうした悲鳴が聞かれる。将来不安が一気に高まっているだけに、県の役割は重要さを増している。足元の景気対策と併せ、中長期の視野に立った経営環境作りと、成長分野の産業活性化策が求められる。一方、県の財政健全化も待ったなしの状況。企業も県も踏ん張りどころを迎えている。

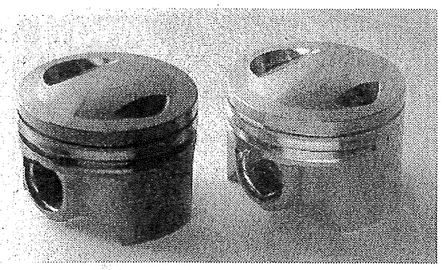
（栃木・杉浦武士）

東京日本

アルミ部品のDLC被膜処理

耐はく離強度6倍に

神奈川県産技センター 実用化にめど



【厚木】神奈川県産業技術センターは、アルミニウム製エンジンピストン表面のDLC（ダイヤモンド・ライク・カーボン）被膜処理の実用化にめどをつけた。DLC被膜生成の前処理として、アルミ表面に直径10㌨㍍（マイクロは100万分の1）程度のタングステン粒子を高速で打ち込む「WPC処理」を採用。WPCを行わない場合に比べ、約6倍にDLCの耐はく離強度を上げることができた。「ピストンとシリンダーの摩擦を減らし、燃料効率を数％上げることが可能」（同センター）という。

DLCは炭化水素などによる硬質被膜技術で工具や自動車部品に施される。アルミ部品の場合、耐はく離強度を高めることが課題だった。WPC処理は不二WPC（神奈川県厚木市、下平英二社長）が手がけており、金属微粒子を高速で被処理面に打ち込むことで金属表面を強化する手法。高速でタングステン微粒子をアルミ表面に打ち込むことで「DLCとの密着性が大幅に上がる」（同センター）という。

▲……左側がDLC処理を施したもので、右側はDLC処理なしのもの

同センターでは、これまで直径数十㌨㍍以下のタングステン微粒子をアルミ表面に打ち込むWPC処理実験を行ってきたが「10㌨㍍粒子を用いた場合が一番有効だった」（同）という。

同センターでは、3月に実際のガソリンエンジンを用いた耐久実験を行う計画。ピストンとしゅう動するシリンダーライナー部分の鋳鉄にDLCを施した上での実験も進める考え。実測値による耐はく離性の確証が取れ次第、「不二WPCと共同での商品化」を図る考え。

長野・静岡・山梨の技術集結

3県の担当者が技術相談にも応じる（昨年のテクノメッセ）

東京・新宿で展示商談会　22・23日

3県の特色ある加工技術や製品が一堂に―。長野、静岡、山梨の3県は22日から2日間、東京都新宿区の新宿NSビルで中小企業向け展示商談会「ながの・しずおか・やまなしテクノメッセin東京」を開催する。入場無料。3県合計137企業・グループが機械加工などの技術や自社開発製品を出展し、首都圏のメーカーや商社など新規取引先の開拓につなげる。

東京での3県合同による中小企業向け展示会は3回目となる。08年に中小企業庁が選定した「元気なモノ作り中小企業300社」の中から3県内の16社が参加する。出展企業は電子部品、金型、切削加工、プレス、板金溶接、鋳造、樹脂、表面処理など得意とする加工技術や試作品を展示する予定。

開催期間中は3県の担当者が来場者が求める加工技術などの相談にも応じる。相談の内容に合わせて各県の企業を紹介するなど企業同士のマッチングを支援していく。

中小融資制度の金融機関預託金 神奈川・厚木市 3億円を増額

【厚木】神奈川県厚木市は16日に、中小企業融資制度の特定金融機関向け預託金を3億円増額する。08年度当初の同預託金17億円と合わせ、総預託金額は20億円になる。景気の急激な悪化に伴い、08年度当初の厚木市預託金17億円に基づく中小企業向け融資額は08年4―11月までに50億円と、前年度同期比で2・7倍に急増している。「厳しい環境下での特定金融機関による中小企業向け融資促進」（市産業政策課）のため、同市では3億円を追加預託する。

11月の東北鉱工業生産 2カ月連続減

【仙台】東北経済産業局がまとめた08年11月の東北地域鉱工業動向によると、生産指数（速報、05年＝100）は前月比5・7％減の95・4（全

来月19日から工業フェア

東京・大田区 142社が独自技術アピール

東京都大田区、大田区産業振興協会、大田工業連合会は、2月19―21日大田区産業プラザ（PiO）で「第13回おおた工業フェア」（日刊工業新聞社など後援）を開催する。高度な技能を持つ中小企業・団体142社が出展。今回は来場者7200人を目標に各企業が独自技術をアピールして販路拡大を目指す。入場無料。

今年は講演会やセミナーなどイベント企画を充実させた。19日の13時半―15時まで日本総合研究所の高橋進副理事長を招き「不透明な日本経済を読む」と題した講演会を開催。定員80人。申し込みは東京商工会議所大田支部ファクス（03・3731・9801）へ。

21日の13時半―15時までは町工場で働く少女『ナッちゃん』を描く漫画家たなかじゅん氏を招き、モノづくりの楽しさを語ってもらう。定員180人で申し込みは同協会まで。そのほか、中小企業の経営に役立つ10セミナーを3日間開催する。

19日には大田区の新製品コンクールで受賞した9社と優工場の認定を受けた5社の表彰式を行う。また、150社が参加予定の受発注相談会も開く。講演会・セミナーの申し込みは同協会経営サポートチームのファクス（03・3733・6496）へ。

携帯の希少金属再利用

1522台から銀126㌘回収 東京都

東京都は15日、第5回希少金属等含有製品回収促進協議会を開き、08年10―11月末の2カ月間、都内で実施した使用済み携帯電話回収実験の結果をまとめた。都庁や足立区役所、地下鉄日比谷駅など20カ所に設置した回収ボックスで携帯端末本体1522台を回収。推計で金25㌘、銀126㌘、パラジウム12・6㌘に当たるとしている。都は「リサイクル意識の高まりに加え、マスコミや行政広報紙などで周知した結果、多くの端末を回収できた」とした。

回収に協力した武蔵野市では使用済み携帯電話端末約250台が回収された。人通りの多い都営地下鉄やメトロなど6駅では合計275台を回収し、慶応義塾大、早稲田大、首都大東京では各9―14台程度の回収にとどまったことが分かった。

協議会では今回の結果を踏まえ、学生など若い世代に回収促進PRをどう働きかけるか、回収拠点数の拡大や量販店・商店街との連携について検討する予定だ。次回は3―4月に協議会を予定。

▲……協議会には自治体代表や事業者団体なども参加

18日に経営戦略フォーラム 東京・足立区

東京都足立区は18日に足立区役所で、「大学連携とワーク・ライフ・バランス（WLB）改革の可能性」をテーマに経営戦略フォーラムを開く。2012年に神田キャンパスを同区北千住に移転する予定の東京電機大学が参加する。

同大学産官学交流センター長の阿高松男教授が「大学との連携の可能性」をテーマに基調講